

特別講演 1

「昨シーズンのインフルエンザ感染症を振り返って

～2025 – 2026 シーズンの戦略～」

関西医科大学附属病院 呼吸器感染症・アレルギー科教授

宮下 修行 先生

感染症の流行状況には、近年重要な課題が多く見受けられる。百日咳はマスク生活の反動により大流行しており、特に小児において重症化・死亡例増加という深刻な問題が発生している。さらに、2023年にはマイコプラズマが大流行。特にマクロライド系抗菌薬への薬剤耐性が進展していることは、今後の大きな懸念材料となる。そして、インフルエンザ感染症に関しても、薬剤耐性を有する株が確認されており、インバウンドの影響により、季節を問わず流行する傾向が強まっている。

高齢者層においては、免疫老化による疾病負担の高まりから、重症化リスクが増加する。このような背景からワクチン接種の重要性が一層高まっている。また耐性株の出現状況を考慮し、抗ウイルス薬の選択が一層重要になってきた。

本講演では近年バリエーションが増加したインフルエンザワクチン・治療薬を重症化リスク低下に向けてどのように使っていくべきかについてポイントを解説する。